



## 火災予防に中学生も一役

### 一日消防士で放水訓練

市浦管内で発生した火災件数は、三月末で三件。これまでの建物火災の原因は、火の取り扱い不注意によるものが圧倒的に多く、林野火災では、火の不始末、タバコの投げ捨て等によるものがその原因です。

消防署では、火災による悲惨な焼死事故や貴重な財産の損失を防止しよう。と中学生を「一日消防士」に任命し、火災予防につとめました。

(関連記事六面に)



昭和53年

## 3・4合併号

三月定例村議会

昭和五十四年度の村の方針を決める三月定例議会は、三月二十一日から三十一日までの会期中に開かれ、一般会計を始め、簡易水道事業、国民健康保険など特別会計の予算も議決され、四月一日から執行されています。  
本年度の予算は、一般会計では前年度より一千七百万円増の十一億一千百万円となりました。

白川村長提案理由を説明

## 経費の節減合理化と 節度ある財政運営を

わが国経済は、国際通貨情勢の不安要因と国際収支の黒字縮少のため、構造的不況が長期化し、深刻な事態に追い込まれております。

このような、国の経済動向の中にあつて、地方財政もまた厳しい財政環境におかれており、地方自治体の財政基盤の強化が重視されておるのであります。

国民生活の基盤となる社会



提案理由を説明する  
白川村長

資本の整備に、国と地方が一体となつてあることになりましたが、増高の一途をたどる一般行政費の節減合理化等についても、国と同一基調により重点主義に徹し、節度ある財政運営をするよう強く要請されておるところです。  
自主財源に乏しい本村におきまして、これらの全般の全見通しの上にて、昭和五十四年度の予算を策定したのであります。

その結果、一般会計では十一億一千百万円となりました。一般会計予算についてはのみ申し上げれば、前年度当初に比べ、わずかに一億の伸びにとどまりました。

職員による  
宿直を廃止

先ず、総務関係では、職員の労務の軽減と庁舎管理体制の強化を図る立場から新年度より、職員による宿直を廃止し、宿直代行制度に切り替えることとし、九十一万三千円を計上しております。

果議会議員選挙、村長選挙、村議会議員選挙及び農業委員会選挙等、本年度内に施行される選挙費用あわせて四百五十三万五千円を計上。

また、村民福祉の増進と住みよい活力ある村づくりを求めて審議を継続して参りました総合開発審議会の活動経費についても計上いたしました。

社会福祉協議会に  
百八十三万八千円

恵まれない村民の自立更生を積極的に助長するため、法外援護、悩みごと相談等民間をすすめるための拠点とする村社会福祉協議会に補助することとしました。

十三地区に  
常設保育所

あすの市浦の発展を担なう

子どもたちの健全な成長を願って、四月から常設保育所として発足する胎元保育所の運営費に一千九百五十九万三千円を計上し、さらに引き続き十三保育所を建設すべくその事業費として、三千五百七十七万九千円を計上しました。

最終年次となつた  
簡易水道

衛生費は一億九千八百九十万円、前年度比十五億の伸び、住民の健康を守るための保健衛生事業については、健康への投資というより、積極的な立場に立つて予算計上をし、自分の健康は自分で守るといふ健康自衛意識の高揚と濃密な健康指導を進めて参る所存であります。

また、全村給水をめざして三ヶ年計画で実施して参りましたが、簡易水道事業も、本年は最終年次を迎えたわけであり、その事業費一億五千三百余万円も計上して、あります。

最も給水が遅れている十三地区についても、十三機の完成される十ヶ月前後には、給水するよう万全の準備をしております。

農、漁業の  
振興を推進

農林水産業費については、前年度に比較して水稲はより十三万円の減額計上となりましたが、これは、サケ、マス増殖事業の完成に伴う事業減や草畑開発事業及び大沼ため池整備事業費の減額によるものであります。

まず、農業費についてあります。本村における農業の実態からして水稲は最も安定した作物であり、むしろ推進すべきものと信じておりますが、農業をとりまき内外の諸情勢をみると、農家所得の安定確保に一層の努力を傾注していくかねばならないと存じます。

したがって、昨年末市浦農協より請願されております農産倉庫の建設費の助成についても、昭和五十四年度より五ヶ年計画で七百五十万円助成することとし、その第一年次分として百五十万円計上いたしました。

また、新農業構造改革事業指定のための前段として行われる農業振興地域整備事業に對しても百五十万円計上してあります。



一方、水田再編対策より三年継続で助成する予定の集団転作推進補助金及び互五補助金費軽減補助金についても、あわせて約四百三十万円計上いたしました。

畜産費としては、育成センター運営費に五百四十二万円、放牧場の維持管理及び肉牛飼育奨励費等に約四千万円それぞれ計上いたしております。

水産業費については、サケマスふ化場が完成し、去る二月二十日岩手県より発芽卵、百二十万粒を購入し、慎重にそのふ化作業に着手しております。また、三月十二日に至り九十匹近い卵が一斉ふ化し、ようやくその成功の足がかりをつかむことができました。今回は、五十四年度分のふ化管理委託費として、二百四十一万円を計上するとともにあわび稚魚放流五千個分として六十六万円をそれぞれ計上しております。

### 九路線の道路を舗装

道路行政については、村民の生活環境の改善や村勢進展の基礎としても極めて重要な意味を持つものであり、ここ数年來道路予算には特段の配

慮をし、その整備を図ってきたところであり、本年も九路線の道路舗装事業費として五千三百萬円の予算措置をいたしました。また、臨元、十三漁港の局部改善事業費負担金として、七百三十万円、地籍調査費として一千四百余万円をそれぞれ計上しております。

### 大幅に伸びた教育費

次の世代を担う青少年の健全な育成と、社会の進展に応じた人的能力の開発等、教育

### 歳入

昭和五十四年度の歳入の主なものは、村税が六千四百七十八万一千円で、前年度と比較してわずかに一、八割の伸びより見込めず、予算総額に対する割合も六割という状態であり、分担金や手数料等をあわせた自主財源の合計額をみても十割にみたない額であります。三割自治を当面の目標とする公共の願望からは、はるかに遠い存在となつております。また、村財政の大宗をな

文化の振興については積極的に対応を講じて行く所存であります。そのため、一般会計全体でわずかに一割より伸びない予算の中で、教育費については、前年度と比較して約三千二百萬円の増、二十二割という大幅な伸びを計上しております。学校向上については、基礎学力の向上をはかる観点から、教材備品の整備充実をはかり、施設の維持改善にも重点的な予算の配分を行ったほか、教員住宅建設事業費 四百二十九万円。

す地方交付税についても、不況のあらしが依然として厳しく、法人税や所得税の伸び率が低く、前年実績の九割前後の伸びより見込めない状態であり、本村では前年度当初対比、三割増の五億九千七百六十六万円の予算計上をいたしました。また、村債については、本年度の国の地方債計画並びに予定事業の起債充当率やこれまでの実績等を勘案し、一億七千五百六十万円を計上したものであります。

十三小学校プール建設事業費、二千九百九十万円を計上しました。社会教育活動費については前年度予算額の二・五割に匹敵する約八千六百万円の予算計上をしております。

不況による厳しい財政の中で、昭和五十四年度の一般会計予算は、十一億一千百万円となり、前年度と比較してわずかに一割の伸びにとどまりました。歳入における主な行政施策は次のとおりです。

### 総務

- 村勢要覧を発行 万九千円
- みどりのおばさん入分の人件費百二十三万円
- 安全パレード、教室他三十二万六千円
- 交通安全書替七万円
- 土地利用対策費、三十六万九千円
- 各種選挙実施費、五百三十三万五千円
- 指定統計調査費、六十七万一千円
- 広報発行費 二百四万円
- 総合開発計画関係経費 七十四万八千円
- 産業開発調査委託費、四十九万円
- 各種選挙実施費、五百三十三万五千円
- 指定統計調査費、六十七万一千円
- 交通安全対策費、二百三十三万一千円
- 余病院百八十五万円
- 村枝福祉協議会百八十三万八千円
- 心配ごと相談所十七万四千円
- 重症心身障害者医療費、二百六十万円

### 民生

- 〇街灯新設 十二万円
- 〇各種負担事業、四百二十万九千円
- 〇重傷心身障害者医療費、二百六十万円

○老人福祉費、二千五百五十  
万円、母親クラブ三十万  
円、遺児援護費二十二万  
八千円。

○相内保育所運営費、三千  
二百三十三万五千円。

○老人保健費、三十九万九  
千円、老人医療費、一千  
九百五十九万三千円。

○へき地保育所運営費、六  
百七十九万六千円、老人  
保健学級他四十九万五千  
円。

○児童福祉費、二百八十二  
万五千円。

○児童福祉費、二百八十二  
万五千円。

### 環境美化宣言塔を設置

#### 衛生

○保健衛生経費、百五十四  
万三千円。

○予防費、四百四十七万二  
千円。

○母子衛生費、百二十一万  
五千円。

○環境衛生費、百一十八千  
円。

○環状衛生費、百一十八千  
円。

○環状衛生費、百一十八千  
円。

○環状衛生費、百一十八千  
円。

○簡易水道事業、一億五千  
三百六十八千円。

昭和五十二年度から始め  
た簡易水道事業も最終年  
次となり、総事業費は三  
億八千二百五十七万八千  
円となります。

○清掃費、一千五百四十七  
千円。

○簡易水道事業、一億五千  
三百六十八千円。

昭和五十二年度から始め  
た簡易水道事業も最終年  
次となり、総事業費は三  
億八千二百五十七万八千  
円となります。

○清掃費、一千五百四十七  
千円。

○簡易水道事業、一億五千  
三百六十八千円。

昭和五十二年度から始め  
た簡易水道事業も最終年  
次となり、総事業費は三  
億八千二百五十七万八千  
円となります。

### 県出稼ぎ協会がスタート

#### 商工労働

○失業対策費、三十七万八  
千円。

○失業対策費、三十七万八  
千円。

○失業対策費、三十七万八  
千円。

○失業対策費、三十七万八  
千円。

○失業対策費、三十七万八  
千円。

### 農協倉庫建設に助成

#### 農林水産

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

○農業振興対策費、五百六  
十九万八千円。

#### 土木

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

○道路維持費、一  
千四百八十七万  
七千二百円。

### 下村線など9路線を改良舗装

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

○道路建設改良費  
七千二百円。

#### 消防

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

○消防施設費、六百十七万  
五千円。

#### 教育

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

○教育振興費、四百一  
十九万六千円。

# 新入学児童を

## 交通事故から守ろう

長い冬の生活から解放され、春を待ちかねた子どもたちが戸外でのびのびと遊びまわる季節となりました。

小学校の入学式は四月七日に行われ、今年新しく入学した児童七十人の登校がはじ

まりました。

入学児童を持つお母さんが何かと心配をしくなるのもこの季節ですが、こころを悲惨な交通事故の犠牲から守るため、保護者はつぎのことに気をつけてください。

### 初歩的な交通ルールを教えましょう



子どもたちは、学校の先生  
の教えることは忠実に守ります。学校では、道徳の正しい歩きかたをはじめ、初歩的な交通ルールについては相当な時間をもって教えております。子どもを持つ家庭でも、学校で教えることにはった指導に心がけることが大切です。

身近な例としては、毎日の新聞やラジオが知らせる、市内の交通事故を話題にしたがら交通ルールの必要性をかみくだいて説明することもに、外出の時は実地とその場にあわせた指導につとめることです。

- 学校へ送り出すとき**
- ①すこし早目に送り出す。
  - ②持ち物はできるだけ少なくすること。

- ③出がけに、しっかりと、せきたてたりしないこと。
- ④車に気をつけてねと忘れないで声をかけること。
- ⑤雨の日は運転者からよく見えるように黄色の雨具などを着用させること。

### 家に帰ったら

- ①帰宅のあいさつを励行させること。
- ②外出先と帰宅時間を守らせること。
- ③遊び場はよく確かめて遊ばせる。

## 村民大会開催などを決める 安協市浦支部定時総会



による死傷者は三名に達した。

金木地区交通安全協会市浦支部(白川孝治支部長)の定時総会は、このほど基幹集落センターに約五十人の会員が出席して開かれた。

白川支部長が「暴走飲酒運転の根絶をめざして運動をしてきたが、五十三年度の事故

一件も交通事故を起さないようにしよう」とあいさつしたあと、金木警察署高藤弘交通

### マスケットをサービス

#### 相内保育所白鳥クラブ母の会

かわい子どもを交通事故から守りましょう」と相内保育所白鳥クラブ母の会(会長白川植子)では、三月十七日運転者へ水仙やチューリップの造花と安全運転を呼び

かけるチラシをくばりました。母の会では、交通事故を防止するための学習会を開いたが、無事故無違反を呼びかける署名運動等に積極的に取り組んでいます。

主任が、管内の交通事故の分析をし、会員に激励と協力を求めました。

このあと、議事に入り五十三年度の報告と決算を承認、新年度の事業を決めました。

また、役員改選ののち、「交通事故防止のため立ちあがろう。」と交通安全宣言を採択し終了しました。

- ◆新役員は次のとおり
- 支部長 白川孝治、副支部長 坂井精、秋田谷又三郎、佐々木松雄、木村孝一、下沢国一、奈良原悦、事務局長 秋田谷多喜郎、同次長 丁子谷勇、会計 大谷三三、監事、三和孝治、佐藤稔

この日十三人の会員が街頭に出て、マスケットを呼びました。母の会では、「子どもを交通事故から守るのは母親の義務である」と、これから交通事故防止を呼びかけていくことにしています。

## 中学生の一日消防士

### 黒川君と奈良さん

春の火災予防運動は四月十日から十六日まで行われましたが、津軽北部消防事務組合（谷口功消防長）では期間中の四月十二日、中学生二人を「一日消防士」に任命。火災予防に一役買ってもらいました。

「一日消防士」に任命されたのは、市浦中三年の黒川史章君と奈良道子さんで、二人はこの日、奈良忠義市浦分署長から辞令の交付を受けたあと、消防や救急業務全般についての説明を聞き、実際に放水訓練にも参加しました。また、二人は中里町にある消防本部庁舎も見学し、消防に関するアンケートなども行ったほか、日頃の消防活動についての感想文も書きました。「一日消防士」の任務を終え、五月号に掲載します。



一日消防士に任命された黒川君と奈良さん



避難訓練をする十三小の子どもたち

## 十三小で避難訓練

十三小学校（葛西正善校長）では、消防署の協力で地震と火災発生を想定した避難訓練と火災予防の映画会を実施しました。

これは、授業中における地震と火災発生時の避難のしかたを身につけさせるために行ったものですが、これまでも定期的に実施しているもの。この日、十時に非常ベルと同時に小田桐教頭が「みなさん地震です。避難してください。」

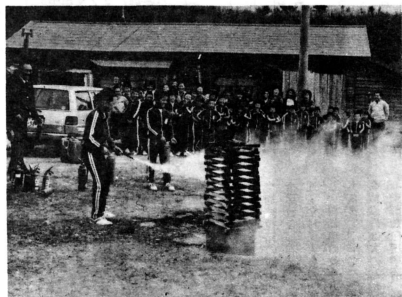
い」と通報。

新しく入学した児童十九人も一斉に自分の机の下に身をかくした。続いて「給食室から火災が発生、火事です。」廊下へ飛び出した子どもたちは、消防署員が準備した発煙筒の煙に一瞬びつくりした様子でしたが、テキパキとした態度で先生方の指示に従い、指定された避難場所へ一分十秒で全員避難しました。

## 太田小では消火実験

太田小学校内山金吾校長）

では、四月十六日児童生徒にやる火災消火実験をしました。三十二名の全校生徒が校庭に集合し、消防署員が消火器の構造と上手な使い方を説明したあと、青森市丸栄消火の萬川講師と消防署員が消火の実地指導をしました。続いて、児童生徒が次々消火実験をして、燃え上がる火を見事に消し止めた。また、この日は学校参観日であったために、あ母さんたちも消火実験に参加した。なれない手つきで消火器を握ったあ母さんたちは、いくら実験でも「火は怖い。」火事を出さないように注意しようにね。と子どもたちと話しあっていました。



お母さんたちも参加した消火実験

村派遣社会教育主事  
片山 永繁 さん (42歳)



あたたかい心のふれあいを求めて

「社会教育は、地域住民と手たずさえて密接な連携のもとに推し進めなければならぬ。また、一人ひとりのつながりを守つたためには、お互いが相手の立場に立つて語りあい、良く理解することが大切であろう。社会教育は初めての仕事ですが、心のふれあいを求めて、村ぐるみの社会教育を進めてみたい。」



▶ 3 ◀

四月一日付けで派遣された片山さんは、就任の感想をこのように語りました。  
昭和二十一年、錦ヶ沢町一ツ森小学校を振り出しに、鶴田町梅沢小学校、同町水元小学校、上北郡七戸小学校

校、五所川原市栄小学校で教員生活をしてきた生つづきの教育者です。

いかにも教員という印象を与えるが、教師にありがちな固さはなく、何人でも話しあえる気さくな人です。

社会体育にも力

「市浦村は、海と山と湖があり、自然環境に恵まれたところである。また、スポーツの盛んなところだとも聞いているので、社会教育のみならず、社会体育にも力を入れてみたい。」という。

三か年の期間で派遣されたが、期間にこだわらず、できれば、市浦住民になりきって、じつと腰をすえて仕事をしたい。と抱負を述べています。これといった得意なスポーツはないが、一応何でもござれとのこと。時々ピアノを弾いたり、磯釣りや山歩きを趣味とする片山さんです。哲子夫人と一粒ダネの長女恵里ちゃんの三人で赴任しました。西郡木造町出身。

体験入隊など決める

自衛隊父兄協会で総会

昭和五十三年度市浦村自衛隊父兄協会は、去る三月十一日、「和歌山ドライブイン」に二十名の会員を集めて開かれました。

されたもので、隊員の父兄や元隊員であればだれでも入会できることになっていきました。

総会では、昭和五十三年度の事業報告や決算などを承認したあと、五十四年度の事業として、①体験入隊（七月中旬）②空自三沢基地見学（八月上旬）③国道三十九号線工事施設隊員を慰問する（九月中旬）などを決めました。「自衛隊父兄協力会」は、村出身の自衛隊員を激励しよう——と、五十一年三月設立



総会場風景

ご協力ありがとうございました

—村社会福祉協議会事務局

五十三年度中に当協議会にお寄せくださったご好意に対し、ご報告と共に御礼申し上げます。

特に、当協議会独立にあたっては村当局のご高配によって設立されたことですが、座布団、灰皿、湯飲み等をご寄付下さり、

| 月日        | 金額      | 寄付者芳名         |
|-----------|---------|---------------|
| 53. 4. 18 | 50,000円 | 工藤 華座         |
| 8. 24     | 2,180   | 薄 迎 寺         |
| 11. 10    | 53,906  | 市浦中学校生徒会      |
| 12. 12    | 30,000  | 市浦商工会青年部      |
| 54. 1. 19 | 11,950  | 市浦地区労働開き実行委員会 |
| 1. 26     | 3,430   | 磯松老人クラブ       |
| 3. 16     | 30,000  | 旭開拓約税貯蓄組合     |
| 3. 30     | 20,000  | 三和 さち         |
| 合 計       | 201,466 |               |

なお、役員改選で次の方々が選ばれました。  
●会長 藤田礼造 ●副会長 若山恭次 ●理事 佐々木松雄、秋田谷武雄、奈良正勝、中畑藤雄、藤田金太郎、相川其太 ●監事 三上敬司、奈良米明。

の目的である「たすけあい」の資金にと、会費をお寄せ下さった住民各位に対して心からお礼申し上げます。

今後、本会の目的をご理解くださり、一層のご協力をお願いいたします。会費の他に寄付金をお寄せくださった各位は次のとおりです。

★村民ひろば★

連載

戸籍の窓



お 医 生

米谷真由美 (相内) 久 雄  
 工藤 浩之 (十三) 忠比古  
 武田 幸枝 (相内) 裕 幸  
 三和 学 (相内) 明 義  
 岩間 友宏 (相内) 定 義  
 葛西 千由希 (相内) 信 雄  
 藤西 航太 (脇元) 善 博  
 斎藤 摂江 (脇元) 尚 仁  
 山田 さくら (脇元) 昭 美  
 太田 真由美 (磯松) 辰 夫  
 浦田 真理子 (十三) 辰 夫  
 岡本 春香 (相内) 茂 樹



ご 結 婚

山本 昭和 (太田)  
 (斎藤) たか子 (東京)  
 (中村) 茂 (脇元)  
 (鈴木) 昌子 (東京)  
 (斎藤) 金光 (東京)  
 (山田) さち子 (十三)  
 (片山) 信一 (札幌)  
 (米谷) 育子 (相内)

お く や み

武田 キク (太田) 79歳  
 木村 忠吾 (太田) 84歳  
 米谷 ヤサ (平館) 72歳  
 笹山 あね (脇元) 65歳  
 三橋 ツネ (十三) 78歳



家 庭 と 仕 事

成田 弘子  
 (市瀬 眞協勤務)  
 (二十三歳)

私は、家庭と仕事を両立させる一人の主婦です。口では簡単だが、現実にはなかなか思うようにいかない。どうしても家庭がおろそかになり、子供には手がまわらなくなります。悪癖をこぼしながらも主婦としての責任を感じるこのごろです。だけれども、円満な家庭をつくるために汗水ながして、子供をいっしょに育てて

行くのだと思います。私も一人の主婦として、ごく平凡な生活を送っているのです。小さな部屋は味噌汁のにおいで充満し、ご飯もふっくらできあがった頃主人は眠い目をこすりながら起きてくる。「おはよう」続いて子供が、家族が毎日一緒に暮らせるということほどどんなに素晴らしいことか、これに勝る宝はないと思います。



救急出動して

三和 剛雄  
 (消防署勤務)  
 (二十六歳)

テレビ、新聞等で毎日交通事故の悲報が伝えられている。私達は少々々の事故では驚かなくなっているのでは無いでしょうか。高度経済成長以来、車の普及はめざましく、それに比例して増えているのだと安易に受け止めず、もう一度考え直してみるのが必要だと思います。私は職業柄、幾度となく事故の悲惨な

現場を見てきました。その時の家族の悲しみは文筆では表わしようがありません。私たちは、どうしてもたら交通事故を防止できるか、真剣に取りくまなければならぬ。雪どけと同時に各地では、いたましい交通事故が連続して出ますが、私たちも今年に入ってから救急出動しています。ひとりひとりの自覚が事故防止の歯止だと思ふのだが。

赤十字三分団員、清和園を慰問

いつまでも長生きしてください

おじいさん、おばあさん元 ひとりひとりに、赤飯や十三の砂山の手拭いなどを手渡し、浦村赤十字奉仕団十三分団(分団長中島豊治)の団員八名が、中里町特別養護老人ホーム「清和園」を慰問。おむつ、十三の砂山の手拭い、赤飯、みかんなどを持参し、入居者からたいへん喜ばれました。 十三分団は、昭和五十一年四月二十日に団員十六名で結成されましたが、これまで、災害時の奉仕活動、助けあい共同募金、社資募金活動、敬老会の受託実施など、積極的な奉仕活動を続けてきました。この日も、入居者の



「十三の砂山」を贈る団員

◎犬の登録及び狂犬病予防注射

| と き    | と ころ     | じ かん    |
|--------|----------|---------|
| 五月一日   | 太田センター前  | 二二時～二五時 |
| 五月一日   | 横川田舎互助会前 | 二二時～二五時 |
| 役 場 前  | 脇元出張所前   | 二二時～二五時 |
| 五月一日   | 磯松公民館前   | 二二時～二五時 |
| 十三出張所前 | 十三出張所前   | 二二時～二五時 |

※登録費に於いては、四月第一回登録料一千五百円、第二回登録料五百円、第三回登録料二百五十円、第四回登録料二百五十円、第五回登録料二百五十円、第六回登録料二百五十円、第七回登録料二百五十円、第八回登録料二百五十円、第九回登録料二百五十円、第十回登録料二百五十円、第十一回登録料二百五十円、第十二回登録料二百五十円、第十三回登録料二百五十円、第十四回登録料二百五十円、第十五回登録料二百五十円、第十六回登録料二百五十円、第十七回登録料二百五十円、第十八回登録料二百五十円、第十九回登録料二百五十円、第二十回登録料二百五十円、第二十一回登録料二百五十円、第二十二回登録料二百五十円、第二十三回登録料二百五十円、第二十四回登録料二百五十円、第二十五回登録料二百五十円、第二十六回登録料二百五十円、第二十七回登録料二百五十円、第二十八回登録料二百五十円、第二十九回登録料二百五十円、第三十回登録料二百五十円、第三十一回登録料二百五十円、第三十二回登録料二百五十円、第三十三回登録料二百五十円、第三十四回登録料二百五十円、第三十五回登録料二百五十円、第三十六回登録料二百五十円、第三十七回登録料二百五十円、第三十八回登録料二百五十円、第三十九回登録料二百五十円、第四十回登録料二百五十円、第四十一回登録料二百五十円、第四十二回登録料二百五十円、第四十三回登録料二百五十円、第四十四回登録料二百五十円、第四十五回登録料二百五十円、第四十六回登録料二百五十円、第四十七回登録料二百五十円、第四十八回登録料二百五十円、第四十九回登録料二百五十円、第五十回登録料二百五十円、第五十一回登録料二百五十円、第五十二回登録料二百五十円、第五十三回登録料二百五十円、第五十四回登録料二百五十円、第五十五回登録料二百五十円、第五十六回登録料二百五十円、第五十七回登録料二百五十円、第五十八回登録料二百五十円、第五十九回登録料二百五十円、第六十回登録料二百五十円、第六十一回登録料二百五十円、第六十二回登録料二百五十円、第六十三回登録料二百五十円、第六十四回登録料二百五十円、第六十五回登録料二百五十円、第六十六回登録料二百五十円、第六十七回登録料二百五十円、第六十八回登録料二百五十円、第六十九回登録料二百五十円、第七十回登録料二百五十円、第七十一回登録料二百五十円、第七十二回登録料二百五十円、第七十三回登録料二百五十円、第七十四回登録料二百五十円、第七十五回登録料二百五十円、第七十六回登録料二百五十円、第七十七回登録料二百五十円、第七十八回登録料二百五十円、第七十九回登録料二百五十円、第八十回登録料二百五十円、第八十一回登録料二百五十円、第八十二回登録料二百五十円、第八十三回登録料二百五十円、第八十四回登録料二百五十円、第八十五回登録料二百五十円、第八十六回登録料二百五十円、第八十七回登録料二百五十円、第八十八回登録料二百五十円、第八十九回登録料二百五十円、第九十回登録料二百五十円、第九十一回登録料二百五十円、第九十二回登録料二百五十円、第九十三回登録料二百五十円、第九十四回登録料二百五十円、第九十五回登録料二百五十円、第九十六回登録料二百五十円、第九十七回登録料二百五十円、第九十八回登録料二百五十円、第九十九回登録料二百五十円、第一百回登録料二百五十円、



津軽の先住民族

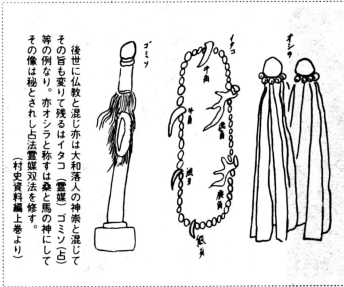


安倍の先祖と東日流三祈禱法

豊島勝蔵

安倍氏の伸勢

荒吐族の中心民族は、い  
うまでもなく晋人系と耶馬  
台系と、両族とも戦いに  
すれど、東日流に落ちのびて来  
た民族ですから、復讐心が  
燃えさかっている火のよう



後世に仏教と混じりは大和系人の神楽と混して  
その旨も東日流はイタコ(靈媒、ゴミソ)と  
舞の例なり、赤オシラと称する鼻と馬の神にして  
その像は秘とされし古五箇道法を傳す。  
行史資料館上巻より

でした。とくに同じ国内に  
住む耶馬台王朝の安日彦、  
長髓彦一族の日向一族に対  
する復讐心は強く、事ある  
毎に南下して中央政權との  
間に攻防を展開しました。  
したがって、荒吐族の阿曾  
部系、晋人系も耶馬台系の  
安日彦、長髓彦を先祖とし  
て統一されるようになり、  
中央から戦と呼ばれてお  
それられました。この荒吐  
族が東日流ばかりでなく、  
広く勢力を奥羽全円に伸ば  
した安倍氏なのです。

紅石に靈感

赤石沢辺の日照田附近に  
川崎という部落があつて、  
そのこの道路沿えにヒョウタ  
ン型の小山があります。土  
地の人「ナガビネモリ」  
と呼んでいますが、田んぼ  
に土を引いた時、たくさん  
の紅石(お石)の字を書いた  
石が出たという靈感のあ  
るところです。「ナガビネ」  
という音が「長髓」に通ず

るようで、この小高い森が  
古墳ではないかといわれて  
います。長髓彦が矢傷を負  
つて東日流に亡命した時、  
現在の嶽温泉で傷をなおし  
たと伝えられているところ  
から、長髓彦の死骸を葬つ  
た森であらうと思われる。  
ところが、すぐ側を流れる  
赤石川が長雨のたぎりに  
氾濫し、長髓彦の古墳がか  
けくずれるので、死骸をほ  
つて兄安日彦の死骸と誤つ  
しよに葬つたところが、こ  
のオセドウだといわれて  
います。大正年間オセドウ調  
査隊によつて巨大な人骨が  
発掘されて東北大学に保存  
されましたが、長髓彦か安  
日彦かの人骨ではないかと  
噂されています。

祈禱三法いまま

靈氣ただよオセドウを  
去るに及んで、東日流イタ  
コ、ゴミソ、オシラについ  
てふれてみましょう。古書  
によると、これらの風習は  
阿曾部族、津保化族、荒吐  
族、安東安倍一族と伝えら  
れて来た習慣であると書か  
れています。イタコ(靈媒)  
は、念珠三百六十五粒をつ

なぎ、その数を十二月に分  
け、余まつた五粒の数を聞  
とし、月数の区分は龍爪虎  
爪鹿角牛角を以つて殊分し、  
閑珠に区分したところ、こ  
れを招霊の念力を靈感なし  
て死人の代りに遺族に話す  
法であります。ゴミソ(占  
師)は、未来の運命吉凶を  
判断するもので、天と地、  
日と海、山と里、風と雲、  
昼と夜、朝と夕、日輪と月  
星と流星、潮と水、金と石、  
木と草、魚と貝等にも靈符  
をなして占うは年の吉凶判  
断であります。オシラ(祈  
禱師)とは男女の神の精を  
折念して、人の罪障、病魔、  
死魔、怨霊、災魔を避け、  
福徳を招き、衣食住の安泰  
を祈禱する法であります。  
この三法は東日流にのみ  
遺された祈禱法であつて、  
その源泉は古く阿曾部族、  
津保化族、荒吐族の崇拝法  
から出ており、変遷をたど  
りながら現在に至つてい  
るといわれます。歩を中島に  
移して安東水運について語  
ります。

村の史跡メモ

唐川城跡

唐川城は標高百メートルの  
天峯を利用した山城であり、  
本丸と二の丸に分かれ四方は  
断崖と深い渓谷に囲つてい  
る。本丸の奥は高い堀をめぐら  
し低地には古井戸がある。深さ  
十数メートルもあるといわれ  
木の葉が積つている。

本丸と二の丸にはさまれた  
中腹に「春日内御堂」があ  
り、津軽三十三霊場十七番札  
所として巡礼におとずれる人  
々が多い。こほもと、竜興  
寺と春品寺があつたところと  
いわれる。

いま、この城跡からは十三  
湖、福島城跡、日本海を見渡  
すことができ、眼下には青じ  
ゆう丸の数を数えつめたような  
牧場と秀峰岩木の嶺を望むこ  
とができる。

唐川城の築城年はつぎのと  
おり。  
▽延久元年(八八〇) (一) 吉  
安倍宗季・初代城主家城▽寛  
貞元年(七〇二) 安高恒築城  
貞治元年(一一三三) 再築  
▽至徳乙丑二年(一二三〇) 落雷  
により焼失▽明応壬申元年(一  
五二〇) 再築▽嘉吉二年十月  
(一四四一) 落城。



## 歯の健康にもつと関心を

相小養護教諭 浜田 幸子

村内の児童、生徒に共通している健康問題は何かといつてもむし歯であり、これは本村ばかりでなく、いたる所で取り上げられていることである。そこで、子供をむし歯から守り、むし歯になつた時に適切に処置するためには、大人が歯に関する正しい知識を持たなければいけないといふことと、この場を借りて皆さんと勉強することに努めた訳です。

歯は人間の一生運を通じ、その本人の健康と顔に大きな影響を持つもので、子供の時から大切にしなければいけないのです。保健室へは、先生、歯痛い」とやつて来る子供が後を

村に駐在している保健婦と養護教諭と組織している「保健問題懇話会」では、村民の保健衛生思想の向上をはかるため、いろいろな角度から調査研究して村民の健康保持についてアドバイスしています。その調査研究の中から、歯の健康をとりあげてきましたが、これまでのべてきたことをまとめて、この健康シリーズを終わることにしました。

かりではなく、毎日の食事を健全な食生活に習慣づけること。これは歯をみがく以上に歯の健康を保つために重要なポイントであるとされ、食生活をあずかるおかささん方の大切な役割と考えます。

予防に心がけよう  
歯の健康を保つためには、その予防に努めることが一番大事なことです。その一つは、食べ物に関心を持つことです。甘い物を過放するば

## 入学前に虫歯退治を

市浦中養護教諭 七戸 静子

学校に入るの色々と新しい環境にあうわけで、最初のうちはいつい虫歯もおそろそかりわがらです。どうして、その前に治しおきましょう。

イギリスの保健者が一万三千人の子供を対象に調査した結果、虫歯発生率と歯みがきの回数とは関係しないと発表

## むし歯予防は地域ぐるみで

市浦村駐在保健婦 佐藤 明美

五十二年度から、養護の先生活と保健婦とで始めた歯の健康シリーズも今月が最後になりました。皆さんにとって参考になつたかどうかとも不安ですが、もう一度復習の意味で、むし歯予防に大切なことをまとめてみたいと思います。

①妊娠中の栄養こそ強い歯のもと  
妊娠の全期を通じて子ども歯がつかうられていく。むし歯にならない強い歯をつくるためには、偏食をしない方が

したの聞いて、どうせ……だから、はみがきを……そかにしている人ぶつかりました。しかし、これはいさか早計で、やはり必要だと思ひます。常識的に考えてみても不潔であることは自分も他人にも不快感を与えます。また虫歯発生率といつても、小さい虫歯も大きい虫歯も、

④口すずぎや歯ブラシなどによる口や歯の清掃が必要で、二才頃から食後のフックアップ、ついで歯みがきの練習を始めておきましょう。(四才頃まではおかささんの手で) むし歯の退治はひとりりり心がけると同時に、地域ぐるみで取り組まなければなりません。今後とも学校保健と地域保健とが連絡をとり合つて市浦村から歯痛で泣く子どもを一人でも少なくするよう努力したいと思ひます。